

## 本年度(令和元年度)の学校評価

本年度の重点目標 (課題)	1 学習指導・進路指導の充実により、より高いレベルでの進路実現を目指す。 2 学習との両立を目指し、運動部も文化部も積極的に部活動に取り組む。 3 生徒が自主的、主体的に学校祭などの学校行事に取り組む。 4 姉妹校との国際交流など、国際理解教育に積極的に取り組む。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務 (総務部)	・防災体制の整備	・生徒達の防災意識を高める。	・防災委員を中心として生徒主体で防災意識を喚起する。 ・いざというときの対応を想定した避難訓練を考える。
	・PTA活動の活性化	・PTAとよく連絡を取り、学校に寄与できる体制を作る。	・PTA総会、PTA懇談会、文化祭模擬店・バザー、PTA研修旅行などの行事を有意なものにする。
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る	・学習意欲を高めるような授業に心がける。	・学習活動における達成感や満足感を大切に、知的好奇心や向上心を育てる。 ・次期学習指導要領で求められている、主体的、対話的で深い学びを実現するために、授業改善を推進する。
		・家庭での学習習慣を身につけさせる。	・いろいろな機会や方法を活用し、学校全体で家庭学習時間を確保するように、粘り強く指導をする。 ・日常の宿題や週ごとの課題等で、家庭での学習を具体的に指示し、家庭学習に取り組ませる。 ・課題の実施状況や指導方法を情報交換し、常に改善を心がける。
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る  ・授業規律の徹底を図る	・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。	・授業の予習復習や日常の宿題を励行させることで、基礎・基本を定着させ、発展的な学習内容も具体的に指示することで、学力向上を図る。
		・授業を大切にさせる。	・わかる授業、参加する授業に心がけ、授業への意識を高めさせる。 ・授業に集中できない生徒に対しては、組織的、段階的な指導を行う。
		・学習環境を整える。	・担任会、学年会、教科主任会との連携や協力で、学習環境の整備に取り組む。
生徒指導 (生徒指導部)	・規律正しい生活習慣の確立	・積極的に挨拶できるようにする。	・登下校時、および校内ですれ違うときにもしっかりと挨拶ができるよう指導する。
		・遅刻者を減少させる。	・遅刻が多い生徒は、学年団と協力しながら「早出指導」などを実施し、基本的な生活習慣を身につけさせる。
		・身だしなみを向上させる。	・常に身だしなみを整えるよう指導する。特に化粧やスカート丈を短くする行為をなくすように指導する。
		・通学マナーの向上を図る。	・「0の日交通安全指導」や「下校時交通安全指導」を通して安全に通学するよう指導する。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する	・必要に応じて担任が面談し、生徒指導部と学年で連携して解決を図る。
生徒会 (生徒会部)	・生徒会活動の充実	・議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。	・議員の参加意識を高め、クラスにおいて学校行事に関する議論の活発化を図る。 ・生徒会執行部と議員の意思疎通を密にし、学校行事を円滑に行うことができるようにする。
		・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・機関誌や広報を発行し、生徒への情報発信を行う。 ・生徒が積極的に意見を出し、主体性を持って行事の運営に当たるよう指導する。
		・部活動の活性化を進める。	・部室や活動場所の環境整備に努める。 ・部活動登録カード等を活用して実態把握に努める。
		・ボランティア活動への参加を進める。	・エコキャップ運動やあいさつ運動を行い、ボランティア活動への参加意識を高める。
進路指導 (進路指導部)	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・進路指導体制を充実させる。	・担任、学年、教科と連携を図り、進路検討会での個別検討を一層充実させる。その際進路希望調査や実力テスト、模擬試験のデータなどを積極的に活用する。また、入試説明会などで得た情報の共有化を図る。
		・キャリア教育を推進する。	・LTや「総合的な学習の時間」を活用して、生徒の進路や職業に関する意識を継続的に喚起する。また、長期休業中のインターシップへの参加を広く呼びかけ、積極的な参加を促す。
		・補習、模擬試験を充実させる。	・進路実現に向けて、教科や学年と連携して平常・夏季・冬季補習の講座内容の充実を図る。また、模擬試験の目的を学力養成と位置づけ、受験を積極的にすすめるとともに事前事後の指導を充実させる。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
保健 (保健部)	・健康観察の徹底	・朝のSTや各授業開始時の健康観察を全職員で行う。 ・生徒の心身の問題点を早期に発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。	・健康観察のポイントを知らせ、複数の目で観察する。 ・気になる生徒は保健室に報告してもらい、関係者で対応を話し合う。 ・保健室利用の数や理由の情報交換を密におこない、生徒の健康状態の把握に役立ててもらおう。 ・インフルエンザ等の感染症の罹患状況を早期に把握する。
	・教育相談体制の充実	・教育相談についての教職員の知識や理解を深める。	・教育相談の知識や理解を深める方法を検討する。
図書 (図書部)	・学習情報センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。	・図書資料の分類配列を適切にし、その目録を整備する。 ・学習の場としての機能を高めるための創意工夫を行う。
	・読書センターとしての機能の充実	・生徒の図書貸出・利用増を図る。 ・読書会の充実を図る。	・生徒の読みたい図書資料を中心に収集する。 ・展示・広報・企画で読書を喚起する。 ・読書会充実のため、教員が創意工夫を行う。
国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際感覚を高める	・メントーン女子校との交流の継続	・ホストステューデントを中心に、多くの生徒が交流できるよう工夫する。・スカイプの導入。
		・イングリッシュ・サマーキャンプの実施	・委託業者と連携し、研修場所の選定、研修内容の充実を図る。
		・中村地球市民教室の実施	・事前LTを実施し、内容の充実を図る。
		・生徒国際交流委員会の活性化	・全校生徒の意識高揚に寄与できるよう指導する。
		・留学生の受け入れ	・円滑な学校生活のための支援を行う。
		・JICA 訪問の実施 (国際理解コース)	・JICA 職員と連携し、ベトナム研修旅行の事前学習の1つとして計画する。
		・ベトナム研修旅行の実施 (国際理解コース)	・異文化に触れ国際性を身につける機会となるよう研修内容の充実を図る。
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・安易な遅刻早退欠席をさせないことで、生活リズムを整えさせる。	・指導部と連携し遅刻の多い生徒には早出指導を行うなど生活を改善させる指導を行う。また家庭との連絡を密にし生徒の生活状況の把握に努める。
		・規則を守らせ、身だしなみを整えさせる。	・口頭での指導に加え、指導連絡票を利用するなどして段階的な指導を行う。
		・挨拶をしっかりとさせる。	・授業開始終了はもとより、普段から教員側からも挨拶を行うように努め、声かけがしやすい状況を作る。
・学習習慣の確立	・授業を大切にすると雰囲気を作らせる。	・授業規律を確認し授業に集中できる環境作りを生徒自身に意識をさせる。授業を受けるのにふさわしくない状況にある生徒は個別に指導し改善を促す。場合によっては指導連絡票を用いて段階的に指導を行う。	
第2学年	・進路目標の明確化と学力向上	・進路目標を明確にし、達成に向けて学習を開始させる。	・自習部屋などを用意し自発的に質問し学習する機会を設け、家庭学習への取り組みを促す。
		・模試結果を活用し、全国レベルでの自己の実力を認識させ、目標に向けて対策を考えさせる。	・進路ガイダンスや学部学科説明会などの行事もからめながら、具体的な目標を定めた対策を考えさせる。 ・ポートフォリオを活用し自身の学習過程の振り返りを促す。
	・中心学年としての自覚の育成	・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、その中心となって活動できるよう、指導、助言する。 ・後輩の模範となるよう意識して行動させる。	・適切な役割分担を行うことで、各自の責任を自覚させ、自主的な行動を促すような指導を心がける。 ・グループ全体の活動を意識させ互いに協力する意義を考えさせる、 ・身だしなみ指導・学校行事への取り組みなど常に上級生としての態度を自覚させるような声かけを行う。
第3学年	・最高学年としての自覚育成	・学校行事を積極的に取り組ませる。	・球技大会や学校祭などをルールの中で積極的に参加させ日常との切換えをつけさせる。
		・規律ある生活態度で下級生の模範となるようにさせる。	・日常生活からモラルやマナーを守らせ下級生の模範となる行動を取らせる。
	・進路実現	・進路決定に対し妥協せず最後まで努力させる。 ・個々の希望に合わせた進路指導ができるように進路指導部と協力する。	・早期に安易な進路決定する生徒を増やさないように指導し、決まった生徒も卒業まで学習意欲を継続させる。 ・進路検討会等の有効な活用法を模索し、生徒個々に最適な進路指導ができるように情報交換を密にする。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
その他	・中村高校の特色づくり	・国際理解コースを着実にスタートさせる。	・国際理解コース運営委員会を機能させ、国際理解部と連携しながら組織的にコース運営を進める。 ・広報活動を充実させ、コースについて中学校側に周知する。
	・職員の健康管理	・勤務時間の適正な管理	・在校時間を適切に把握するとともに、施設時間を周知徹底し、早目の下校を促す。 ・業務の効率化と分担化を図る。 ・ストレスチェックの結果を活用し、高ストレス者には医師の面接指導を受けるよう促す。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・学習指導における学力向上のための取り組み ・生徒指導における規律正しい生活習慣の確立 ・進路指導における一層の進路意識の育成	

## 前年度（平成30年度）の学校評価

### ア 自己評価結果

本年度の重点目標 (課題)	1 学習指導・進路指導の充実により、より高いレベルでの進路実現を目指す。 2 学習との両立を目指し、運動部も文化部も積極的に部活動に取り組む。 3 生徒が自主的、主体的に学校祭などの学校行事に取り組む。 4 姉妹校との国際交流など、国際理解教育に積極的に取り組む。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務 (総務部)	・防災体制の整備	・生徒達の防災意識を高める。	・防災委員が中心となり、防災訓練でシェイクアウト訓練、文化祭で防災グッズ作成、防災講話に外部講師を招くなど、積極的に生徒に働きかけた。
	・PTA活動の活性化	・PTAとよく連絡を取り、学校に寄与できる体制を作る。	・常任理事・理事の方々を中心として、PTA総会、懇談会、文化祭での模擬店・バザー、研修旅行など数多くの行事を企画・運営していただいた。
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る	・学習意欲を高めるような授業に心がける。	・多くの教科で、視聴覚機器や情報機器を使用したり、アクティブ・ラーニングを取り入れたりして、授業改善した。今後は授業を通じて主体的な学びを引き出し、家庭学習の充実につなげる必要がある。
		・家庭での学習習慣を身につけさせる。	・宿題や週末の課題等の提出を粘り強く指導した結果、多くの生徒の学習習慣が定着した。
		・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。	・補助教材プリントやテスト等の活用で、基礎学力の定着を図った。また、発展的な学習内容も具体的に指示することで、学力向上を図った。今後は、思考力・判断力・表現力の育成への対応が求められる。
	・授業規律の徹底を図る	・授業を大切にさせる。 ・学習環境を整える。	・生徒指導連絡票での段階的、組織的な指導を過去数年間継続したことで、授業規律がしっかり守れるようになってきている。 ・学年会や学級担任の協力で、学習環境を整えることができた。
生徒指導 (生徒指導部)	・規律正しい生活習慣の確立	・生徒が積極的にあいさつできるようにする。	・多くの生徒があいさつしてくれる。今後は積極的に挨拶ができる生徒をもっと増やすよう、指導を継続していきたい。
		・遅刻者を減少させる。	・減少した。しかしながら、学年が上がるにつれて増加する傾向がある。そういった状況にならないよう、早出指導を含めた遅刻指導の見直しが必要である。
		・身だしなみを向上させる。	・女子のスカート丈の短さや化粧は学年団の指導により少しずつではあるが、落ち着きはじめている。品格漂うさわやかな身だしなみとなるよう、段階的指導を導入したい。
		・通学マナーの向上を図る。	・声掛けにより自転車の交通ルールを守ろうとする意識はでてきた。大事故につながらないよう、来年度から、重点を絞った段階的指導を導入する。 ・自転車の並進や道いっぱい広がっての徒歩などの苦情を多くいただいた。交通ルールを守らせるだけでなく、マナーも向上させる指導も強化していきたい。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する	・アンケート実施により、いくつかの事案が発見された。いじめ・不登校対策委員会への積極的な情報共有につながった。 ・担任の先生等による迅速な対応で、特別な指導に至ることがなかった。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒会 (生徒会部)	・生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。</li> <li>・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。</li> <li>・部活動の活性化を進める。</li> <li>・ボランティア活動への参加を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部及び議員に主体性と責任感を持って活動に参加するよう働きかけを行った。今後も生徒が積極的に学校行事に取り組むことができるように指導していきたい。</li> <li>・WILL や機関誌を通じ、積極的に生徒会活動に関する情報を発信した。生徒が興味・関心をもてるような内容の改善につとめたい。</li> <li>・教員と執行部、生徒会とクラスや部活動の情報伝達がうまくいっていない場面が見られたので、改善を図りたい。</li> <li>・クラス及び部活動の発表内容について、独自性あるものを作ることができるよう、創意工夫を促した。来年度も充実した発表となるよう、継続して働きかけていきたい。</li> <li>・部長会を通じて、部室の環境整備を促すとともに、活動内容の把握につとめた。</li> <li>・エコキャップの回収やあいさつ運動、赤い羽根共同募金などの活動を積極的に行った。より多くの生徒に参加してもらえるよう、工夫していきたい。</li> </ul>
進路指導 (進路指導部)	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導体制を充実させる。</li> <li>・キャリア教育を推進する。</li> <li>・補習、模擬試験を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年の進路検討会は時機に応じて実施できた。1、2年は模試実施後にデータ分析会を実施した。新入試制度に向けた学年との連携が今後の課題である。</li> <li>・病院や幼稚園の他、職場見学などにも積極的に参加できた。「総合」の時間の充実と「探究的な活動」の研究が今後の検討課題である。</li> <li>・補習については教科と連携して実施できた。外部模擬試験は1、2年生のほぼ全員が受験した。補習、模試とも事前事後の指導を充実させ、生徒のより積極的、継続的な参加を促すことが今後の課題である。</li> </ul>
保健 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察の徹底</li> <li>・教育相談体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のSTや各授業開始時の健康観察を全職員で行う。</li> <li>・生徒の心身の問題点を早期に発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。</li> <li>・教育相談についての教職員の知識や理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「毎月の健康観察のポイント」にそって健康観察の徹底と連絡をお願いした。健康観察の記録も残した。</li> <li>・毎回の担任会での「生徒情報」を、保健室に知らせてもらった。</li> <li>・毎月の「学年会」へ出席して生徒情報交換につとめた。</li> <li>・保健室での面談後、数名をSCに繋げた。</li> <li>・10月と11月に、名南地区教育相談部会に希望する先生方に参加してもらい、スクールソーシャルワーカーの仕事と、パニック症についての講義を受け有意義であった。</li> <li>・来年度も同様の研修の開催を検討したい。</li> </ul>
図書 (図書部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習情報センターとしての機能の充実</li> <li>・読書センターとしての機能の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料の目録を整備する。</li> <li>・生徒の図書貸出・利用増を図る。</li> <li>・読書会の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(数値は1月末現在のもの)</li> <li>・生徒のよく利用する小型本を中心に約300冊収集した。</li> <li>・利用者数はのべ4,545人で昨年並みだったが、貸出数は564冊で昨年度より大幅に減少した。</li> <li>・今年は、図書館前廊下の展示棚は、生徒が年間計画を立てて飾りつけを行った。</li> <li>・ポスターや雑誌を見に来る生徒を読書や図書館利用へと誘う工夫をしていきたい。</li> <li>・読書会に向けて7回実行委員会を開き、指導した。読書会は、図書委員や実行委員が中心となり、今年も充実した活動になった。</li> </ul>
国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際感覚を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メントーン女子校との交流の継続</li> <li>・イングリッシュ・サマーキャンプの実施</li> <li>・中村地球市民教室の実施</li> <li>・生徒国際交流委員会の活性化</li> <li>・留学生の受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者62名のうち選考された生徒18名を派遣し、実りある交流を行った。</li> <li>・選考方法、事前研修の見直しを図った。</li> <li>・生徒57名が参加し、満足度も非常に高かった。</li> <li>・事前研修、プログラム内容の充実を継続的に図る必要がある。</li> <li>・生徒全員が交流する機会として継続する。</li> <li>・各クラスで設定した探究テーマを深めるための準備LTの内容を検討した。</li> <li>・今後もNICと連携し改善を図りたい。</li> <li>・委員が夏休みに調べたテーマを中村地球市民教室で扱うことで、クラスの国際理解に対する意識を高められるよう指導した。</li> <li>・日本語指導、ホストファミリーや留学団体との連絡調整を行い、留学生が快適な学校生活を送ることができるよう支援した。</li> </ul>

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第1学年	・ 基本的生活習慣の確立	・ 安易な遅刻早退欠席をさせないことで、生活リズムを整えさせる。	・ 遅刻の多い生徒には、早出指導を行う。理由が明確でない欠席者には担任学年主任と連携して面談などを行った。
		・ 規則を守らせ、身だしなみを整えさせる。	・ 日常的に口頭で指導を行い、特に目立つ生徒については呼び出して指導を行った。頭髮に関しては本人ともよく話し、今後どう対応するかを決め確認した。
第2学年	・ 進路目標の明確化と学力向上	・ 挨拶をしっかりとさせる。	・ 授業開始終了はもとより、普段から教員側からも挨拶を行うように努め、声かけがしやすい状況を作る。
		・ 授業を大切に作る雰囲気を作らせる。	・ 授業 ST 時のスマホ指導が多く、SNS のマナーも含め学年集会で全体に指導を行った。 ・ 授業中私語の多い生徒については面談をするとともに必要があれば個別指導をおこなった。 ・ 質問教室を設けるなど自主的に教員に質問できる環境をつくり、参加を促した。今後も継続し自主学習の機会を増やしたい。
第3学年	・ 中心学年としての自覚の育成	・ 模試結果を活用し、全国レベルでの自己の実力を認識させ、目標に向けて対策を考えさせる。	・ 年度初から3年生のような自習室を開設し、学習意欲のある生徒を学年として支える体制を整えた。また、成績不振者には考査前の居残り学習会を実施し、下位層の底上げをねらった。 ・ 修学旅行後の「学部学科説明会」を節目として、学年全体で気持ちを切り替えて受験に取り組ませる雰囲気を作るようにした。 ・ 模試の主催会社による教員向け説明会を実施し、その後の生徒との個人面談等へ生かすよう心がけた。 ・ 良くも悪くも、志望校判定に一喜一憂する様子が見られたため、判定だけに惑わされず、目標に向けた具体的な努力ができるよう促した。
		・ 学校行事や部活動等に積極的に取り組み、その中心となって活動できるよう、指導、助言する。	・ 学校祭に向けて、ブロック集会を意義あるものにするために、学年として各長に事前指導を行った。結果として、ブロック集会は段取りよく行うことができたところが多かった。
その他	・ 職員健康管理	・ 後輩の模範となるよう意識して行動させる。	・ 集会時の整列・点呼で学年全体が時間内に完了できるよう行動を意識させた。 ・ 体育祭では、見込みの甘さから先輩として範を示すことができない場面があった。
		・ 学校行事を積極的に取り組ませる。	・ 文化祭では9クラスすべてが演劇で参加した。準備から当日に運営までよく努力ができた。
第3学年	・ 最高学年としての自覚育成	・ 規律ある生活態度で下級生の模範となるようにさせる。	・ 一部の生徒が身だしなみ等の規律を守れず、残念であった。遅刻や欠席も多く特に学年末考査後の欠席者が多かった。
		・ 進路実現	・ 多くの生徒が妥協することなく私大の一般入試や国公立大へ出願できた。 ・ 補習を積極的に受講するように担任を通じて指導した。また年間を通して学年自習室を業後に開室し、進路自習室と併せて多くの生徒が利用した。
第3学年	・ 進路実現	・ 進路決定に対し妥協せず最後まで努力させる。	・ 多くの生徒が妥協することなく私大の一般入試や国公立大へ出願できた。
		・ 個々の希望に合わせた進路指導ができるように進路指導部と協力する。	・ 補習を積極的に受講するように担任を通じて指導した。また年間を通して学年自習室を業後に開室し、進路自習室と併せて多くの生徒が利用した。
その他	・ 中村高校の特色づくり	・ 国際理解コースの設置に向けて準備を進める	・ コース主任を任命し、ベトナム研修旅行やエンパワーメントプログラム、JICA訪問などについて具体的な計画を立てることができた。 ・ 中学校側や保護者への広報活動が不十分であった。
		・ 職員の健康管理	・ 勤務時間の適正な管理
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・ 学習指導における学力向上のための取り組み ・ 生徒指導における規律正しい生活習慣の確立 ・ 進路指導における一層の進路意識の育成	